2. 普及啓発事業

(1) 講演会等

HICAREでは、放射線被ばく者医療に関する国際協力推進の意義と必要性を啓発するため、講演会の開催など、各種のPR活動を行った。

主な事例

●チェルノブイリに関する報告会や講演会

●国際シンポジウム

●放射線測定体験プログラム

●緩和ケア国際研修会

●世界保健機関(WHO)との共催事業

●IAEA協働センター指定記念式典およびセミナーの開催

年度／月日	事業名・内容
1991(H3) 6月1日	**放射線被曝者医療に関する講演会** (於:広島県情報プラザ 多目的ホール) 【講演】 ・飯島 宗一(名古屋芸術文化センター総長) 「被爆地広島・長崎の世界への貢献について」 ・島津 邦弘(中国新聞社編集委員) 「世界の放射線被曝者の現状と課題」
1991(H3) 10月11日	**放射線被曝事故の健康影響に関する公開報告会** (於:広島国際会議場 ダリアの間) チェルノブイリ調査関係者報告 「放射線被曝事故の健康影響について」 ・佐藤 幸男(広島大学原爆放射能医学研究所教授) ・藤村 欣吾(〃 助教授) ・上田 一博(広島大学医学部教授) ・平田 克己 (HICARE代表幹事、広島赤十字・原爆病院第1内科部長) ・藏本 淳(広島大学原爆放射能医学研究所所長) ・調枝 寛治(広島大学医学部教授) ・今村 展隆(広島大学原爆放射能医学研究所講師) ・土肥 博雄(広島赤十字・原爆病院第4内科部長) ・馬淵 清彦(放射線影響研究所疫学部長) ・阿波 章夫(〃 遺伝学部長) ・秋山 實利(〃 放射線生物学部長)

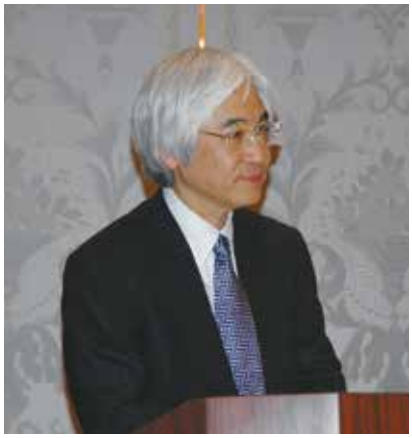
年度／月日	事業名・内容
1992（H4） 7月24日	**放射線被曝者医療国際協力に関する講演会** （於：エソール広島 多目的ホール） 【講演】 ・星 正治（広島大学原爆放射能医学研究所助教授）「チェルノブイリをめぐる最近の現地事情」 ・重松 逸造（HICARE会長、放射線影響研究所理事長）「チェルノブイリをめぐる最近の現地事情」 ・馬淵 清彦（放射線影響研究所疫学部長）「南ウラルにおける被曝事故の影響」 ・藏本 淳（広島大学原爆放射能医学研究所所長）「南ウラルにおける被曝事故の影響」 ・山田 美智子（放射線影響研究所研究員）「放射線被曝の心理的影響をめぐって」
1993（H5） 10月5日	**放射線被曝者医療国際協力に関する講演会** （於：広島国際会議場 ダリアの間） 【講演】 ・伊藤 千賀子（広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター副所長）「第9回在北米被爆者検診報告」 ・藤村 欣吾（広島大学原爆放射能医学研究所助教授）「ロシア連邦チェルノブイリ会議報告」 ・重松 逸造（HICARE会長、放射線影響研究所理事長）「WHOチェルノブイリ協力調整会議報告」 ・蟻田 功（国際保健医療交流センター理事長）「これからの国際保健医療協力」
1993（H5） 1月31日	**チェルノブイリ事故放射線健康影響に関する報告会** （於：広島ターミナルホテル 天平の間） ・L. N. Astakhova（Deputy Director, Belarus Institute of Radiation Medicine） L・N・アスタホーワ（ベラルーシ放射線医学研究所副所長）「ベラルーシにおけるチェルノブイリ事故の健康影響」 ・N. D. Tronko（Director, Institute of Endocrinology and Metabolism, Ukraine） N・D・トロンコ（ウクライナ内分泌代謝研究所所長）「チェルノブイリ事故とウクライナの小児甲状腺癌」 ・武市 宣雄（広島大学医学部第2外科講師）「チェルノブイリ事故と小児甲状腺」 ・久住 静代（放射線影響研究所臨床検査科長）「チェルノブイリ事故後の健康調査－WHO国際ワークショップ報告」
1994（H6） 11月21日	**放射線被曝者医療国際協力に関する講演会** （於：リーガロイヤルホテル広島） 【講演】 ・A. E. Romanenko（Director, Ukraine Research Center for Radiation Medicine, Academy of Medical Sciences） A・E・ロマネンコ（ウクライナ医学アカデミー放射線医学研究センター所長） 「チェルノブイリ事故8年後の学術的データについて」 ・重松 逸造（HICARE会長、放射線影響研究所理事長） 「放射線と社会―IAEAパリ会議より」

年度／月日	事業名・内容
1995（H7） 10月14日	**被爆50周年国際シンポジウム** （広島国際会議場 ヒマワリの間 ） 「放射線被曝者医療の現状と展望－ 世界の事例と広島の貢献」 【講演】 ・伊藤 千賀子 （広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター副所長） 「原子爆弾の災害と原爆被爆者の健康管理」 ・Takashi Makinodan (Professor, UCLA School of Medicine) タカシ・マキノダン（UCLA医学部教授） 「米国在住原爆被爆者の支援とケアについて」 ・Maria P Curado (Chief, Division of Technology, Leide das Neves Ferreira Foundation) マリア・P・クラード（レイデ財団技術部門部長） 「ゴイアニアにおけるセシウム事故犠牲者の健康状態」 ・Vladimir G. Bebeshko (Director, Institute of Clinical Radiology, Ukraine Research Center for Radiation Medicine) ウラジミール・G・ベベシュコ（ウクライナ放射線医学研究センター臨床放射線医学研究所所長） 「チェルノブイリ原発事故汚染除去作業従事者の健康状態」 ・Alexey E. Okeanov (Director, Belarus Center for Medical Technologies) アレクセイ・E・オケアノフ（ベラルーシ医療技術情報センター所長） 「チェルノブイリ原発事故犠牲者の後障害」 ・Sergey A. Shalaginov (Chief, Medical Genetics Counseling Office, Urals Research Center for Radiation Medicine) セルゲイ・A・シャラギノフ（ウラル放射線医学研究センター遺伝医学相談室長） 「ウラル地方の放射線被曝者の健康状態」 ・Erken A. Beisembayev (Professor, Department of Clinical Immunology,Semipalatinsk State Medical Institute) エルケン・A・ベイセンバイエフ（セミパラチンスク医学研究所臨床免疫学部教授） ・Rafaiel I Rozenson (Chief Scientist, Kazakh Research Institute for Radiation Medicine and Ecology) ラファエル・I・ローゼンソン（カザフ放射線医学生態学研究所主任研究員） 「カザフスタン共和国パブロダール地域におけるセミパラチンスク核実験犠牲者の健康状態」 司会：Fred A. Mettler (professor,University of New Mexico School of Medicine) フレッドA.メトラー（ニューメキシコ大学医学部教授） 鎌田 七男（HICARE代表幹事、広島大学原爆放射能医学研究所教授）
1995（H7） 10月23日～25日	**放射線被ばく者医療等に関するパネル展の開催** （於：放射線影響研究所） 「広島が放射線被ばく者医療の国際協力を行うことになった背景、現在のHICAREの活動状況及び将来展望についてのパネル等の展示」

年度／月日	事業名・内容
1996（H8） 8月24日～25日	**WHO/HICARE放射線事故と環境疫学に関する国際会議** （於：リーガロイヤルホテル広島 ロイヤルホール ） 【講演】 ・中谷 比呂樹（広島県福祉保健部長） 「背景―世界的視野が求められる放射線事故」 ・Richard Doll（Regius Professor of Medicine, University of Oxford） リチャード・ドール（オックスフォード大学医学部名誉教授） 「ジュノー博士記念講演―低線量電離放射線の影響」 ・重松 逸造（HICARE会長、放射線影響研究所理事長） 「日本における放射線健康影響の研究」 【パネルディスカッション】 「放射線事故と疫学研究における国際協力」 ・Wilfried Kreisel（Scientific Officer in Radiation, Division of Global Environment, WHO） ウィルフリード・クライゼル（WHO本部環境保健局長） ・Guennadi Souchkevitch（Executive Director, Health and Environment, WHO） ゲナディ・ススケヴィッチ（WHO地球環境部放射線科学官） ・鎌田 七男（HICARE代表幹事、広島大学原爆放射能医学研究所教授） ・Elizabeth Cardisl（Radiation/Cancer Group Head, International Agency for Research on Cancer （IARC）） エリザベス・カーディス（際がん研究機関（IARC）放射線・がん研究主任） 議長：尾形 幸男（中国新聞社顧問）
1997（H9） 10月25日～27日	**緩和ケア国際研修会** （於：広島県民文化センター・ホール/広島県立保健福祉短期大学大講義室） 【講演】 ・Michael A. Richards（Professor, St. Thomas Hospital） マイケル・A・リチャーズ（セント・トーマス病院教授） 「英国における緩和ケアの現状と将来展望－施設ケアの取り組みを中心として」 ・Michael A. Warren（Director, Saint Francis Hospice） 「ハワイにおける緩和ケアの現状と将来展望－在宅ケアの取り組みを中心として」 ・柏木 哲夫（大阪大学人間科学部教授） 「我が国における緩和ケアの現状と課題－ホスピス運動を根付かせるために」
1998（H10） 10月19日	**放射線被曝者医療国際協力に関する講演会** 「放射線から身を守るために」 （於：広島国際会議場コスモスの間） 【講演】 ・Mihail Baronov（Chief, Department of Radioecology, Institute of Radiation Hygiene, Russian Ministry of Public Health）

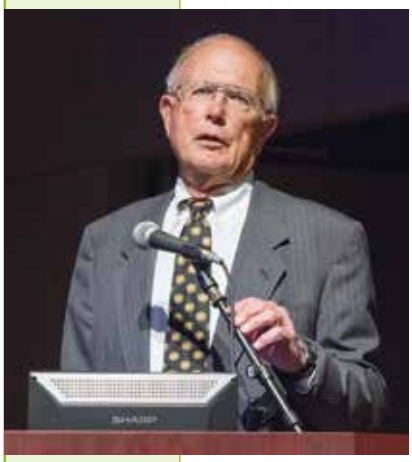
年度／月日	事業名・内容
1998（H10） 10月19日	ミハイル・バロノフ（ロシア公衆衛生省放射線衛生学研究所放射線生態学部長） 「環境放射線問題について」 ・草間 朋子（大分県立看護科学大学学長） 「医療放射線問題について」 **【放射線測定体験プログラム】**
1999（H11） 10月25日	**放射線被曝者医療国際協力に関する講演会** 「放射線　知っていますか」 （於：広島東急イン鶴舞の間） 【講演】 ・Philip Metcalf（Vice-chairman, South African Atomic Energy Board） フィリップ・メットカルフ（南アフリカ共和国原子力委員会副委員長） 「環境放射線問題について」 ・小山 矩（広島県立保健福祉短期大学教授） 「放射線の種類と性質について」 **【放射線測定体験プログラム】**
2000（H12） 5月14日	**HICARE10周年・IRPA-10開催記念市民セミナー** 「生活と放射線」 （於：広島国際会議場ヒマワリ） 【講演】 ・小出五郎（日本放送協会（NHK）解説委員） 「報道機関から見た国際協力」 ・Juergen Bernhardt （Chairman, International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection） ユルゲン・ベルンハルト （国際非電離放射線防護委員会委員長） 「生活と電磁波」 ・Burton Bennet（former Secretary of the United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation） バートン・ベネット（国連放射線影響科学委員会前事務局長） 「生活環境の中の放射線」 **【放射線測定体験プログラム】**
2001（H13） 11月26日	**放射線被曝者医療国際協力推進協議会・広島大学講演会** 「いつでも、どこでも、だれでもが最善の医療を受けられる緊急被曝医療体制をめざして」 （於：鯉城会館） 【講演】 ・神 裕（日本原燃（株）げんねん診療所長） 「放射線事故の歴史」 ・鈴木 元（放射線影響研究所臨床研究部長） 「放射線の人体影響」 ・青木 芳朗（原子力安全研究協会研究参与） 「我が国の緊急被ばく医療体制」 **【放射線測定体験プログラム】**

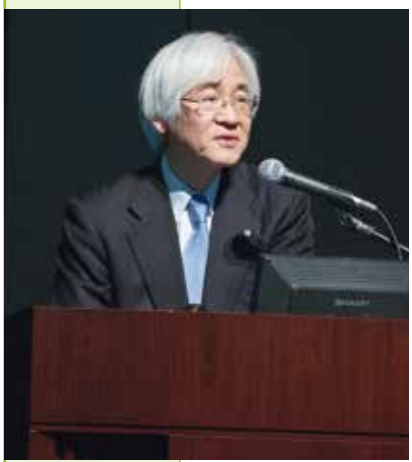
年度／月日	事業名・内容
2002（H14） 11月11日	**緊急被ばく医療体制について考えるシンポジウム**「迅速で、実効性のある緊急被ばく医療体制をめざして」 （於：鯉城会館） 【講演】 ・鈴木 元（放射線影響研究所臨床研究部長） 「緊急被ばく医療の基礎知識」 【パネルディスカッション】 「広島の緊急被ばく医療体制」 ・神谷 研二（広島大学原爆放射線医科学研究所所長） ・鈴木 元（放射線影響研究所臨床研究部長） ・谷川 攻一（広島大学医学部附属病院救急部長・集中治療部長） ・大居 慎治（松江赤十字病院第二内科部長） ・林 繁幸（松江地区広域行政組合消防本部警防課長） コーディネーター：神谷 研二（広島大学原爆放射線脳科学研究所長） **【放射線測定体験コーナー】**
2003（H15） 1月6日	**放射線被曝者医療国際協力推進協議会・広島大学講演会** 「日本・カザフスタン被曝者医療協力の成果と将来計画」 （於：鯉城会館） 【講演】 ・星 正治（広島大学原爆放射線医科学研究所教授） 「広島大学・カザフスタンの放射線量研究について」 ・Zhaxylik A. Doskaliev（Health Minister, the Republic of Kazakhstan） ザクシリク・ドスカリエフ（カザフスタン共和国保健大臣） 「カザフスタンにおける被曝者医療及び肝再生研究について」 ・浅原 利正（広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授） 「広島大学における肝移植及び肝再生研究について」 ・Zhaxybay Zhumadilov（Visiting Professor, Hiroshima University Research Institute for Radiation Biology and Medicine） ザクシバ・ズマジーロフ（広島大学原爆放射線医科学研究所客員教授） 「セミパラチンスク地域の放射線被曝・甲状腺障害の発生について」 ・岡本 哲治（広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授） 「セミパラチンスク核実験場周辺における口腔・顎・顔面疾患の分子疫学的研究」
2004（H16） 2月9日	**放射線被曝者医療国際協力推進協議会講演会**「世界の放射線被ばくの現状を知る」 （於：広島YMCAホール） 【講演】 ・遠藤 暁（広島大学原爆放射線医科学研究所助教授）「暮らしの中の放射線」 ・星 正治（広島大学原爆放射線医科学研究所教授）「世界における被ばくの実態」

年度／月日	事業名・内容
2005（H17） 9月15日	**被爆60周年記念放射線被ばく医療国際協力シンポジウム**「放射線被ばく者の保健・医療と広島の役割」 （於：リーガロイヤルホテル広島） 【基調講演】 ・児玉 和紀（放射線影響研究所主席研究員・疫学部部長） 座長：重松 逸造（放射線影響研究所名誉顧問） 「広島の放射線被ばく者の保健・医療と広島の役割－被爆60周年のメッセージ」 【シンポジウム】 被爆60周年を迎えた放射線被ばく者医療技術の新たな展開について ・神谷 研二（広島大学放射線医科学研究所教授・緊急被ばく医療推進センター長） **「放射線緊急医療ネットワークと放射線事故の西の拠点としての広島の役割」** ・朝長 万左男（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・原爆後障害医療研究施設長） **「長崎の国際放射線被ばく者医療協力の取組みについて」** ・辻井 博彦（放射線医学総合研究所・重粒子医科学センター長） **「重粒子治療・原子力の平和利用についての将来の夢」** 座長：伊藤 千賀子（広島原爆障害対策協議会 健康管理・増進センター名誉所長） 土肥 博雄（HICARE会長、広島赤十字・原爆病院長）  【パネル展】 1.HICAREの事業を紹介するパネル　2.HICAREの関連団体の活動を紹介するパネル
2006（H18） 9月14日	**HICARE創立15周年記念国際シンポジウム**「HICAREのこれまでの取り組みと今後の展開について」 （於：リーガロイヤルホテル広島） 【基調講演】 ・Kenneth J. Kopecky（Professor University of Washington） ケネス・J・コペッキー（ワシントン大学教授）「チェルノブイリ被ばく事故の健康影響について」 座長：大久保 利晃（放射線影響研究所理事長）

年度／月日	事業名・内容
2006（H18） 9月14日	【シンポジウム】 **HICAREのこれまでの取り組みと今後の展開について** 【講演】 ・Shimanskaya Ilina Grigorievna（Associate Professor, Belarusian Medical Academy of Post-Graduate Education） シマンスカヤ・イリーナ・グリゴリエブナ（ベラルーシ医学再教育アカデミー助教授） 「HICAREのチェルノブイリ支援」 ・Yuji Satsukawa（Doctor, Nipo-Brasileiro Hospital, Brazil） ユウジ・サツカワ（ブラジル連邦共和国日伯友好病院医師） 「HICAREの在外被爆者支援」 ・Choi, Chang-Woon（Director, National Radiation Emergency Medical Center, KoreaInstitute of Radiological and Medical Sciences（KIRAMS）） チェ・チャンウン（韓国原子力医学院緊急被ばく者医療センター長） 「韓国の緊急被ばく医療システム」 ・鈴木 元（国立保健医療科学院生活環境部長） 「緊急被ばく者医療の今後の展望」 ・山内 雅弥（中国新聞社編集委員） 「HICAREに期待すること」 コメンテーター：柳田 実郎（HICARE代表幹事、広島県医師会常任理事） 座長：星 正治（広島大学原爆放射線医科学研究所教授） 谷川 攻一（広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授） 【パネル展】 1.HICAREの事業を紹介するパネル 2.HICAREの関連団体の活動を紹介するパネル
2007（H19） 1月24日	**放射線被ばく者医療の国際協力シンポジウム** ブラジルでの被爆者医療現地研修実施報告 （於：八丁堀シャンテ3階「松竹」） 【基調講演】 「平和への願い　－被爆体験と広島の被爆者医療支援－」 座長：土肥 博雄（HICARE会長、広島赤十字・原爆病院長） 講師：碓井 静照（ブラジル派遣医師団団長、広島県医師会長） 【シンポジウム】 「ブラジルの被爆者医療とHICAREの今後の役割」 シンポジスト：伊藤 勝陽（ブラジル派遣医師団団員、広島大学教授）

年度／月日	事業名・内容
2007（H19） 1月24日	「ブラジルでの被爆者医療研修について」 ・Yuri Fujimura：Medical Treatment Department of Santa Cruz Hospital in Brazil 藤村 ユリ（ブラジル・サンタクルス病院医療診療管理者） 「ブラジルでの被爆者医療事情とHICAREへの期待」 座長：迫井 正深（広島県福祉保健部長） コメンテーター：柳田 実郎（HICARE代表幹事、広島県医師会常任理事） 総合司会：有田 健一（広島赤十字・原爆病院呼吸器科部長）
2008（H20） 9月6日	**第12回放射線事故医療研究会共催シンポジウム** 「放射線被ばく事故とHICAREの医療支援について」
2009（H21） 11月13日	**HICARE国際協力シンポジウム** 「国際機関による放射線被曝者支援の近況について」
2015（H27） 2月27日	**HICARE被爆70年事業国際シンポジウム** 「原爆被爆70年 被爆者医療体験の継承と国際貢献」 （於：広島県医師会館ホール） 【基調講演】 ・Fred A. Mettler（Professor Emeritus and Clinical Professor, University of New Mexico School of Medicine） フレッド メトラー（ニューメキシコ大学医学部名誉教授） 座長：土肥 博雄（日本赤十字社 中四国ブロック血液センター所長）「70年：Sadakoに学ぶ」 【シンポジウム】 ・児玉 和紀（放射線影響研究所主席研究員）「HICARE（ハイケア）25年間の活動について」





年度／月日	事業名・内容
2015（H27） 2月27日	・Christopher H. Clement（Scientific Secretary, International Commission on Radiological Protection） クリストファー・クレメント（国際放射線防護委員会科学秘書官） 「人間に対する放射線影響のゴールドスタンダード：科学的価値と倫理的責任」 ・神谷 研二（広島大学副学長） 「福島原発事故における広島の貢献」 「次世代の人材育成：放射線災害復興を支援するフェニックスリーダー育成プログラム」 ・権丈 雅浩（広島がん高精度放射線治療センター副センター長） 「医療における放射線の活用」 座長：津谷 隆史（HICARE代表幹事、広島県医師会常任理事）
2016（H28） 11月9日	**HICARE25周年記念講演会** （於：広島県医師会館ホール） 【講演】 ・児玉 和紀（放射線影響研究所主席研究員） 「HICARE25年の歩みと原爆放射線健康影響調査」 座長：大久保 利晃（HICARE6代会長、前放射線影響研究所理事長） ・加世田 俊一（HICARE代表幹事、広島県医師会常任理事、広島赤十字・原爆病院副院長） 「在外被爆者支援事業について -在南米被爆者健康相談等事業帰国報告-」 座長：土肥 博雄（HICARE4代会長、元広島赤十字・原爆病院院長） ・永田 靖（広島がん高精度放射線治療センター長、広島大学大学院 医歯薬保健学研究院教授） 「最先端の放射線治療による広島からの国際貢献」 座長：鎌田 七男（HICARE2代会長、元広島大学原爆医科学研究所所長）

（2）専門書の作成

(i)「原爆放射線の人体影響1992」

医療従事者向けの原爆医療解説書の作成は、HICAREの歴史の巻頭を飾る目玉事業であり、1992年（平成4年）6月に発刊された「原爆放射線の人体影響1992」は、原爆被爆後46年間の研究の成果を集大成したものとして、いまもなお高い評価を得ている。

放射線の健康影響の幅広い理解と、世界各地で発生している放射線被ばく者の医療のために原爆後障害研究の成果を役立てることを目的としたこの原爆医療解説書の作成は、原爆医療解説書作成ワーキンググループ（担当幹事：広島原爆障害対策協議会 健康管理・増進センター副所長伊藤千賀子、役職は当時）により進められたものであり、HICAREの発足前の1991年（平成3年）1月、その活動は既にスタートしていた。

内容は、それまでに得られた研究成果に基づき、とくに人体への健康影響を中心として、疾患別にわかりやすい解説を試み、それらの執筆は、主として広島で実際に原爆被爆者の医療・健康管理・研究に携わっておられた第一線の方々39名にお願いした。

1991年（平成3年）1月22日以降、数回にわたるワーキンググループ（WG）会議の後に、同9月17日からは重松逸造氏（放射線影響研究所理事長、役職は当時）、伊藤千賀子氏、鎌田七男氏（広島大学原爆放射能医学研究所血液学研究部門教授、役職は当時）、秋山實利氏（放射線影響研究所放射線生物学部部長、役職は当時）、および佐々木英夫氏（放射線影響研究所臨床研究部副部長、役職は当時）の5名の編集者からなる編集委員会が3回開かれた。

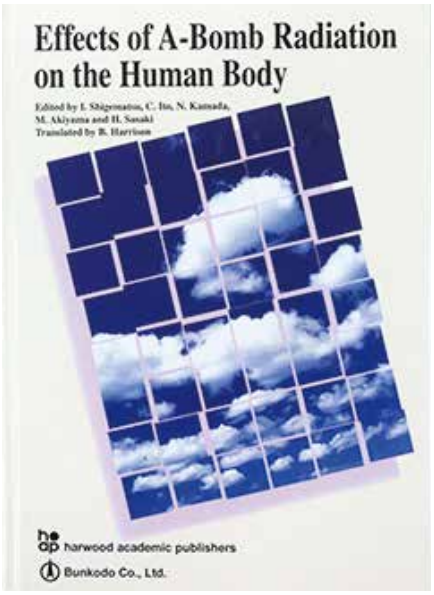
これらの編集委員会を通して集まった原稿の確認・編集が重ねられ、㈱文光堂より1992年（平成4年）3月31日に第1刷が発行された。

(ii)「原爆放射線の人体影響1992」(要約版)の発刊

「原爆放射線の人体影響1992」の要点を、図や表を使い、一般の人々にも目で見てわかり易いように伝えるため、1992年度(平成4年度)は同書の要約版の作成に取り組んだ。原爆医療解説書作成WGは、1992年(平成4年)6月1日に第1回要約版編集会議を開催し、要約版の全体の構成，各テーマの内容、執筆者、ページ数を決定し、7月31日までに担当幹事へ提出するよう決定した。

11月24日には、第3回要約版編集会議を開催し、要約版の初校原稿をもとに、出版社である㈱文光堂も交え、図、表及び説明文等の内容について再検討を行った後、1993年(平成5年)4月に「原爆放射線の人体影響1992」(要約版)が発行された。

(iii)「原爆放射線の人体影響1992」及び同要約版の英語版の発行



「原爆放射線の人体影響1992」及び同要約版の英語訳については、1992年度(平成4年度)から作業が進められており、原爆医療解説書作成WGにおいては、質問およびその回答のとりまとめなど、翻訳者と各執筆者の間の連絡調整を行ってきた。

1993年(平成5年)10月には、「原爆放射線の人体影響1992」(要約版)の英語版が一足先に出版された。

「原爆放射線の人体影響1992」の英訳については、1993年(平成5年)12月18日に出版社と協議を行い、また、12月24日にはWGの会合を開き、その時点でできあがっていた翻訳原稿について、執筆者に1月10日までに目を通し修正してもらうこととした。この修正において、当初の日本語版から内容自体も修正されたものがあり、これについて2月8日に翻訳者と協議を行った。この後、執筆者による翻訳原稿の再チェック等を経て、1995年(平成7年)4月に「原爆放射線の人体影響1992」の英語版が出版の運びとなった。

なお、この「原爆放射線の人体影響1992」(英語版)は第31回日本翻訳出版文化賞1995年度(平成7年度:日本翻

訳家協会主催）を受賞した。

（iv）「原爆放射線の人体影響1992」（要約版）のロシア語版の発行

HICAREの受入研修生のうち、ロシア語圏からの研修生が多いため、1998年度（平成10年度）に「原爆放射線の人体影響1992」（要約版）のロシア語版を作成した。このロシア語版は、それまでの日本語版、英語版と異なり商業出版を目的としたものでなく、ロシア語圏からの研修生および旧ソ連地域の関係機関への寄贈用として作成した。(出版：1999年（平成11年）3月)

（v）「原爆放射線の人体影響　改定第2版」の発行

「原爆放射線の人体影響1992」は、発刊より原爆被爆者医療のバイブル的存在として、更に、海外から研修で訪れる医療関係者のテキストとして活用された。しかしながら、発刊より相当の年月が経過していくとともに、その間にも原爆放射線の後障害に関する研究は進展を遂げ、その成果が数々の論文として報告された。このような背景のもとに、当協議会幹事会は、新たな研究の成果を盛り込んだ改訂版を出す必要性を認識し、2006年（平成18年）に編集ワーキンググループを立ち上げ、編集方針の検討を行うとともに出版に向けた一連の作業を進めた。

内容は初版の持つ原爆放射線医療のバイブル的存在としての位置づけを保ちつつ、あくまで純粋な科学的専門書であることを基本とした。よりわかりやすい構成とするため、初版では記述が混在していた「原爆被曝(生存)者」「胎内被爆者」「被爆二世（遺伝的影響）」を目次で大別し、更に個々の項目ごとに「要約」を設けることとした。本書の根幹となる目次や執筆者の選定は、編集ワーキンググループの児玉和紀氏（放射線影響研究所主席研究員）、佐々木英夫氏（広島原爆障害対策協議会 健康管理・増進センター所長、役職は当時）と星正治氏（広島大学原爆放射線医科学研究所教授、役職は当時）が行った。

初版の執筆は、広島で原爆被爆者医療に携わる方々に依頼したが、本書では、広島において第一線で活躍されている方々に加え、長崎の方々にも依頼した。また、巻末には「用語解説」を設けて、一般的ではないいくつかの用語について簡潔な解説を加え、一般の読者の便を図ることとした。こうして2012年（平成24年）の3月30日の第1刷発行に至ることとなった。